

鱚雲ウニ塩湖の色をして

放哉の辞世の色の秋の山

ひらがなのまるさたずさえおなもみは

古代からあくびありけり今朝の秋

鯖雲のしんがりにして隅田川

「ぬ」の丸きとこ書くようにマフラーを

凍蝶のMシクマのようにたたまれて

山川の世界史の香よ大試験

裏方にサンタ目薬さしにけり

寒晴のバタートーストなららかに

切干を切れば we will rock you

凧を音叉のごとく身延山

山茶花や愛新覚羅溥儀真顔

野次馬も火事被害者も方言で

春暑く上野公園似顔絵師

砂抜き戦争の記事蜆汁

人形に屋根のない家万愚節

新人の天気予報士春二番

桜咲く村で一番低い木も

青色の春を掻き出すトラクター

猫の恋三丁目より生まれり

喋らない鸚鵡を許す春夕焼はるゆやけ

忽然と悠然と山笑いけり

雨蛙飛ぶ力学も知らず飛ぶ

飼育員通路の香り草いきれ

未解読文字に文学金魚玉

子子の振動地震計微動

異星語の怒りのような祭りかな

夕立の暗さアンゴルモアめいて

遺失物めく形代の速さかな